

言葉と文化の壁越え

トップカンファレンス

最新ケータイ技術を活用した情報社会の建設



慶応義塾大教授

中村伊知哉氏

最近、このようなことを考えた。無人島に一つだけ持っていくならば、何を持って行くだろうか。わたしはテレビだ。中学三年の長男に聞くと、パソコンと答えた。中学一年の二男はケータイと答えた。モバイルの利

ソフト面 戦略課題

知哉

用は若い世代へと広がりを見せている。デジタル技術の普及で、モバイルの利用者一人一人が力を発揮する時代となっている。「Web2.0」という言葉が流行したが、デジタル技術で個人が主役になる時代が来ている。

人間、一人一人の能力がIT（情報技術）で高められている。本番はこれからだ。今後、日本や中国などアジアの国々はモバイルで大きな力を発揮するだろう。

日本は、モバイルの端末やネットワークの整備で先行していたが、最近サービスやコンテンツ（情報の内容）で米国や欧州に遅れをとっていると思われる。日本では、産学官でこれらの戦略の見直しが進んでいる。

中国では、どうか。今後、中国と日本が連携し、明るいモバイル社会の展望を切り開けるかが課題となる。